報復屋

稲草　狐依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
報復屋

【Ｎコード】
Ｎ４５０４ＢＡ

【作者名】
稲草　狐依

【あらすじ】
今自殺しようとする俺と何者か分からない彼との学園物語。

自殺

「死ぬのか」
俺の後ろから聞こえてきた。
だが振り向かず足元より遠くに見える地面を見続ける。
「怖いならやめろ。飛び降りるなら空を見ながら飛ぶはずだ」
勝手な憶測を言うな。
俺は死ぬ。
それが俺の逃げ道だから。
「死ねばいいんじゃない。生きてても苦しいだけだ」
確かにそうだ。
「まあ自分は苦痛があってこそ生きるのが楽しいからな」
そんな事が言えるのは幸せな奴だけだ。「……あんたの代わりに自分がなってもいい」
俺は振り向いてしまう。
そんな下らない嘘なのに。
「ただしあんたをそこまで追い詰めた奴の安全は保証しない」　そんな意味不明な事を言う彼。
学校の屋上でパイプ椅子に座り何かの本を読んでいる彼。　そんな訳分からない事を言われた所で自殺をやめる気はない。
俺は再び前を向く。
その時、体に衝撃が走り俺は前に倒れてしまう。
永遠の眠りから覚めるような刺激が襲う。
俺はそのまま地面に落ちる。
はずだった。
下に落ちた本のように。
「すまないな。手が滑ってな。それで間違ってあんたを拾ってしまった」
不敵な笑みを浮かびながら俺の腕を掴んでいる彼が嘘を言う。

「離せよ」
耐えきれず言ってしまう俺。
「ここで離したら自分は人殺しだろ」
そんな事は俺には関係ない。　腕を振り解こうとしたが、振り解く前に俺は屋上に戻されてしまった。
「とりあえず明日も学校に来てみろよ。学校生活が変わるかもしれないだろ」
彼は疲労の色を見せながら不敵な笑みを浮かべている。
こいつのせいで飛び降りる気が失せた。
今日は家に戻るか。
「あんた、名前は？　同じ学年みたいだけど」
彼は学ランの襟に付けてある数字を掴んで見せている。
俺は返事を返さない。
「なら好きに呼ぶよ。自分は屋久　宗太」
そう言う彼を一瞥すると俺は屋上を後にした。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4504ba/

報復屋

2012年1月12日02時55分発行